

子どもたちの安全を見守ります



児童たちと一緒に帰る隊員の皆さん（南部小）

近年、不審者による児童を狙った「声かけ・連れ去り」未遂事件が全国的に多発し、毎日のように報道され、市内・県内でも報告されています。

そのような状況の中、市内では、以前から組織されている自主パトロール隊や「110番の家」に加えて、昨年度新たに8つの自主パトロール隊と、全小中学校区のPTAに委嘱された「こども110番の車」が結成されました。

平成17年度中に結成された自主パトロール隊（結成順）

- 野町防犯パトロール隊
- 東加積児童防犯パト隊
- 下梅沢元気タウンパトロール隊
- PTA子ども110番の車（全学校区）
- 東部小学校安全パトロール隊
- 加島町二区みまもり隊
- 寺家っ子パトロール隊
- 西部小学校安全パトロール隊
- 南部小学校安全パトロール隊

自主パトロール隊は、地域の安全や少年少女の非行防止など目的としたものや、福祉のまちづくりや地域づくりを目的としたもの（福祉見回り隊など）、不審者の発見や幼児・児童の安全を見守ることなどを目的としたものなど、「安全で安心して暮らせる街づくり」を目指して結成されています。

パトロール隊の皆さんは、蛍光色を使用した帽子、ジャンパー、腕章やタスキなどを着用しています。



自主パトロール隊の結成式で児童と対面する隊員の皆さん（西部小）

実際に結成された方に、いきさつや活動内容などをお聞きしました



子供たちを見守ること
それが住みよい街へつながる
野町防犯パトロール隊
隊長 石原 俊一さん

町内に高齢者が増え一人暮らしの方や、日中は1人になつて居る方をサポートできないかという話があり、そして、「事件が起きてから保護者が子どもと一緒に歩くことがあるが、起きる前に何かできないか。高齢者が家に引きこもるのを防ぐ意味でも協力してもらい、地域で子どもを守るためにパトロール隊を作ろう」という町内会長の言葉から結成しました。

ポイントを決めて登下校時に街頭に立ち、子どもたちとあいさつを交わしたり、途中で一緒に歩いたりします。それぞれのポイントには2〜3人で立っていますが、皆さんには強制せず、雨や雪が降っているとき、暑い日や寒い日などがありますから、都合が良く体調が良いときに協力してもらっています。

最初は、第1・第3月曜日に、登校時間帯に散歩して

子どもたちに危険回避能力を身につけさせましょう

大人たちが自主パトロール隊を結成しても、それだけで十分というわけではありません。また、子どもたちに護身術を指導したり、防犯ブザーを持たせたりしても、それは、犯罪者に近づかれたときの対処法であり、被害防止の最後の手段と言えます。子どもたち自身が危険に対する回避能力を持っていれば、それらを使わずに済む可能性があります。

子どもたちが危険回避能力を身につけるためには、親・学校・地域が協力して教える必要があります。そして、子どもたち自身に学ばせる、発見させることが大切です。

子どもたちに覚えてほしい合言葉「今日は、イカのおすし」

きよ	きよりをとる	→ 不審な人や不審な車との距離をとる
う	うしろに気をつける	→ 後ろから不審な人や不審な車が来ないか注意する
は	はやめに帰宅する	→ 暗くなる前に帰宅する
イカ	行かない	→ 知らない人について行かない
の	乗らない	→ 知らない人の車に乗らない
お	大声を出す	→ 危険を感じたら大声で助けを求め
す	すぐ逃げる	→ 危険を感じたらすぐ逃げる
し	知らせる	→ 危険を感じたら親や学校に知らせる

地域安全マップを作ってみましょう

地域安全マップとは、犯罪が起こりやすい場所をまとめた地図です。犯罪者にとって入りやすい場所や周りから見えにくい場所といった、事件や事故が起こりやすいと思われる場所を地図上に記入していきます。

また、交番や何かあったときに駆け込める子ども110番の家など、事件や事故から身を守ることができる安全な場所も併せて記入します。

子どもたち自身がマップを作った場合、危険場所を理解し事前に回避する被害防止能力を養うことになります。

作り方は、学校や警察、教育委員会などにお問合せください。

犯罪者が一番嫌がるのは人の目です。人に見られたり、声をかけられたりすることをとても嫌がります。自主パトロール隊があるといつても、すべてをカバーできるわけではありません。

市民の皆さんが、買い物に出かけるときや散歩をするとき、仕事でちょっと外に出かけるときなどに注意していただくだけでも効果が期待できます。「誰かがやってくれるだろう」ではなく、皆さん一人ひとりのお力を貸してください。

●自主パトロール隊結成